

2021年度 事業報告

社会福祉法人
和歌山いのちの電話協会

ご挨拶

社会福祉法人 和歌山のいのちの電話協会
理事長 加藤 和子



新入学生を迎える学校のように毎年5月に相談員養成講座を開講して、和歌山のいのちの電話は新年度を歩み始めます。今年の38期養成講座にも23名の志ある方々が集まり、熱心にそして静かに、いのちの電話らしい「聴く心」を学んで

おられます。多くの人達を引きつけるこの活動。誰かのためにできることを探そうとする方々に見つけていただけているのは本当に光栄なことだと思っています。その中でこの活動に真に出会っていくためには、電話における真剣なやり取りを経験することが必要なのだと感じます。真剣なやり取りとはもちろん意見を戦わせることではありません。本当の自分の中から出てくる感情をもってかけ手と向き合う時間が持てたかどうか。人が心を深める場に一緒にいられたかどうか、そういう時を経て相談員が太く、そして柔らかく変わっていくのです。

6月には突如始まった内閣府の企画（官民連携プラットフォーム、孤独・孤立相談ダイヤル）へのお誘いがあり、準備期間は短かったですが、必ずや良い経験になると信じて参加を決めました。7月には第1期、8月末から第2期、全国のたくさんの組織と連携しながらの相談業務に加わります。これは日頃培った基本の傾聴をもとに、かけ手の視野を広げたり視点を変えていく関わりも学ぶ機会となります。

このように新しい年度が始まってからアクセルを踏むことの連続でしたが、忙しさを言い訳に大切な事業報告が遅くなりましたことをお詫び申し上げます。資金のご支援をいただいている各方面の皆様、

日々の業務にあたっているボランティア相談員の皆様、ご指導やお世話をいただく関係者の皆様に改めて心よりお礼申し上げます。

冬から春にかけてのことを思い出しますと、コロナ禍で小さくなった行動圏でささやかな喜びを活力にしようと思っていた矢先、世界でおつかりと破壊が始まったのです。平和を当たり前に行っている我々にとって当事国の正義の意味付けは理解ができず、激烈な映像に胸が苦しくなりました。でも徐々に慣れてくる恐ろしさもあり、私は小さな世界に逃げ込む自分を経験しました。国内では著名な芸能人の死亡報道が重く響きました。心の弱った人達にとってどんなに衝撃が多い日々だったことか、いのちの電話の存在がまた大きく期待されることになりました。

自殺はいくつもの困難が重なって追い込まれた末に起こることだとわかってきました。何気ない深刻さのない（ように感じる）通話一つ一つにきちんと向かい合ういのちの電話、その糸がボランティア相談員の温かさを送り、一見元気に見えて苦しさを抱えている今日のかけ手に希望を届けています。相談員にとってそれが十分に自殺予防になっていると自覚ができますように、ゆるぎない研修が必要です。

日本いのちの電話連盟に委託された「フリーダイヤル」には全国の仲間が協力しています。和歌山では毎週金曜日と毎月10日とのわずかしかが加わっていませんが、つながった電話の発信県は毎月30県に上ります。全国の仲間とともに全国からの「私のいのちの話」を受け止める気概を持って取り組みたいと思っています。

なにとぞ一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2021（令和3）年度 事業報告

活動概要

コロナ禍により、稼働相談員が減少している状態に、今後の運営に危機感をもちながらの2021年度でした。

36期（2020年度）養成講座は安全面に配慮しやむなく開催を見送りましたが、2021年度は日本財団様の助成金を活用した感染対策を実施しながら、養成講座に取組みました。結果として、例年の2倍～3倍にあたる24名（37期生）の方が4月より準相談員として新たに活動をスタートさせることができました。

一方、稼働相談員の減少により落ち込んだ相談受信件数を挽回し、より多くの相談に対応するために、和歌山県共同募金会（赤い羽根）様からの助成金を活用し、自己負担である相談員の交通費を助成することで、より活動しやすい環境を整えることができました。長引くコロナ禍の中、稼働相談員数に大きな変化はありませんでしたが、相談員は積極的な動き方を取り戻して、受信件数としては、6976件と2020年4313件より大きく回復しました。

(1) 電話相談事業

(ア) 開設状況

- ・通常電話（073-424-5000）
- ・フリーダイヤル
- ・毎月10日24時間
- ・毎日（16:00～21:00）*和歌山は毎週金曜日のみ参加

(イ) 受信実績

年度	通常電話	フリーダイヤル		合計
		毎月10日	毎日	
2018年度	7323件	529件		7852件
2019年度	6411件	440件		6851件
2020年度	3723件	256件	334件	4313件
2021年度	6025件	497件	454件	6976件

(ウ) 相談員の状況

- ・登録相談員数（2021/4/1現在）128名
（2022/3/31現在）116名
- ・稼働相談員数（2020年度）86名
（2021年度）75名*37期生は除く
- ・準相談員（37期生）認定者人数（2022/4/1）24名

7月3日 精神疾患と治療（講師：高橋 隼氏）

職場のメンタルヘルスケア

（講師：小西 慶直氏）

7月17日 カウンセリングとは（講師：上野 和久氏）

7月31日 聴くということ（ロールプレイ①）

（講師：林 民和氏）

8月7日 自殺予防活動（講師：藤藪 庸一氏）

児童家庭支援の現場から

（講師：武田 麻里氏）

8月21日 傾聴のために（ロールプレイ②）

（講師：岡 育子氏）

9月4日 発達障害について（講師：南方 真治氏）

引きこもり支援（講師：山本 大輔氏）

9月18日 自分を知ろう・グループエンカウンター

（講師：木下 忠恭氏）

10月2日 社会福祉の法制度（講師：河合 馨氏）

ケース研究（講師：加藤 和子氏）

10月16日 心の危機に寄り添う（ロールプレイ③）

（講師：森崎 雅好氏）

(2) 相談員養成事業

(ア) 37期生（2021年度）養成講座実施

- ・期間：2021年5月22日（土）～10月16日（土）
- ・コロナ禍での生活スタイルの変化や、有名芸能人の自死報道で「いのちの電話」が案内されたこともあってか、定員30名に35名の応募があった。感染対策のためより広い会場へと変更し、会場とZoomによるデュアル形式での講義を実施した。また、会場参加者にはマスク着用に加え、アクリル板やフェイスガードなどできる限りの感染対策を行った。

・受講者数

開講時（2021年5月）	31名
終了時（2021年10月）	25名
適性面接（2021年11月）	25名
実習終了時（2022年3月）	24名

・講座タイトル・講師

- 5月22日 開講式・オリエンテーション/
和歌山いのちの電話の活動
いのちの電話の歴史と使命（講師：安田 一之氏）
- 6月5日 グループワーク（講師：坂田 真穂氏）
- 6月19日 児童虐待の本質（講師：桑原 義登氏）
年代別の心の問題（講師：加藤 和子氏）



・実習（11月～3月）

- 現場実習を6回
- 集合研修を4回

11月27日 相談員の倫理（事務局）
実習オリエンテーション
（育成委員・実習担当者）
困難な電話の対応について
（講師：加藤 和子氏）

1月29日 実習振り返り

2月26日 実習振り返り

3月26日 実習振り返り・実習終了

(イ) 38期生（2022年度）養成講座開催準備

- ・準備活動（カリキュラム検討）
- 11月 カリキュラム見直し検討・講師選定
- 12月 講師スケジュール確保、会場確保

2021 (令和3) 年度 事業報告

・募集活動

1月 受講生募集チラシ製作 (3000 枚)

2月～ 募集活動開始

・インターネットでの告知活動

和歌山いのちの電話協会 HP 掲載

こくちーず (インターネット)での告知

・チラシの設置&配布

県・市町村公共施設・保健所等

和歌山県内モスバーガー (5 店舗)

モスバーガー三年坂店、モスバーガー紀ノ川店、

モスバーガー岩出店、モスバーガー海南店、

モスバーガー南紀白浜店



和歌山市自殺予防啓発活動にてチラシ配布(1000 枚)

和歌山県社会福祉士会 会報誌に同封 (約 300 枚)

和歌山県精神保健福祉士会 会報誌に同封 (約 200 枚)

・広告掲載等

県民の友 (3月号)

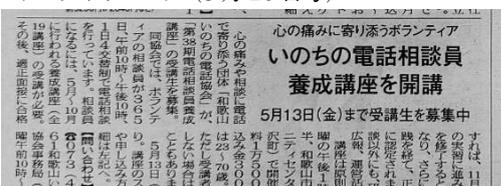
ニュース和歌山 (3月5日号)



ばど (泉南地域) (3月4日号、3月18日号)



サンケイリビング (3月26日号)



テレビ和歌山 CM (15 秒) 2月～3月



・応募状況

2022 年 3 月末 問合せ者数 24 名

申込済者数 17 名

(2022 年 5 月開講時) 問合せ者数 33 名

申込済者数 23 名

(3) 研修・スキルアップ

(ア) 全体研修

・「自殺念慮について」

開催日時：10月23日 13:30～15:00

参加人数：33名 (会場 21名 Zoom 参加 12名)

講師：和歌山日赤医療センター精神科医 東陸広氏

会場：和歌山県民文化会館 大会議室

・「コロナ禍における貧困 孤立 メンタルヘルス」

開催日時：11月23日 13:30～15:00

参加人数：39名 (会場 28名 Zoom 参加 11名)

講師：元読売新聞記者・パドル行政書士事務所

代表 原昌平氏

会場：和歌山県民文化会館 特設会議室



・「愛着障害の理解と支援」

開催日時：1月22日 13:30～15:00

参加人数：39名 (会場 15名 Zoom 参加 24名)

講師：和歌山大学教育学部教授 米澤好史氏

会場：和歌山県民文化会館 特設会議室



(イ) 専門職 (家) を交えてのスーパービジョン

従来のピア・スーパービジョンの形式ではなく、外部講師を招き、専門的なアドバイスを頂く

・1回目：8月31日 大阪学院大学名誉教授・臨床心理士 安田一之氏

・2回目：9月17日 高野山大学准教授 臨床心理士 森崎雅好氏

・3回目：9月23日 Office-K 代表 臨床心理士 木下忠恭氏

・4回目：3月5日 大阪学院大学名誉教授・臨床心理士 安田一之氏

(ウ) 事例勉強会

「事例をとおして、コーラーへの寄り添いを考える」

開催日時：7月25日 13:30～15:00

参加人数：39名

講師：1期生 Y・Hさん 8期生 K・Kさん

会場：和歌山市地域フロンティアセンター



(エ) 育成委員研修

・新育成委員対象のロールプレイ

開催日時：6月26日 13:30～15:00

参加人数：7名

講師：臨床心理士 加藤和子氏

会場：和歌山市中央コミュニティセンター

2021（令和3）年度 事業報告

- ・新育成委員対象のロールプレイ
開催日時：10月6日 10：00～12：00
参加人数：7名
講師：臨床心理士 加藤 和子 氏
会場：事務局和室

- ・ロールプレイのスキルアップ
開催日時：10月9日 10：00～12：00
参加人数：15名
講師：臨床心理士 木下 忠恭 氏
会場：和歌山県民文化会館中会議室

(4) 会議・連絡会の開催

- (ア) 運営委員会 年6回（奇数月・第1火曜日に開催）
 - ・5月1日 出席者12名
主な議題：相談員への交通費支給について
各班への会議費配付について
 - ・7月7日 出席者11名
主な議題：ブース内への空気清浄機設置
無言帳の取り扱い（廃止）検討について
⇒従来通り残す
 - ・9月14日 出席者13名
主な議題：全体研修について
相談員専用連絡電話の撤去
サポート会員の廃止 & OB 会員について
 - ・11月9日 出席者11名
主な議題：OB 会員会費について
相談電話全部録音（全録）について
クレーム電話の受け方について
 - ・1月18日 出席者16名
1月より全録を開始
不審者情報
フリーダイヤル（深夜）の状況について（班会意見集約）
次年度全体研修テーマ
 - ・3月8日 出席者15名
主な議題：勤続表彰について
（班会にて表彰）
37期生をみの班の増設について
次期班長・副班長について

- (イ) 班会（8班体制）
 - ・年6回（偶数月に開催）

- (ウ) 育成委員会
 - ・全体会（1回目：8月28日 2回目：11月6日）
 - ・（37期生）実習関連打合せ
事前検討1（6/2～6/27 3回）
事前検討2（8/23～9/29 5回）
事前検討3（10/1、10/9、11/20 3回）
 - ・2022年度全体研修検討

- (エ) 広報誌作成チーム
 - ・広報誌の発行
 - ・編集会議（オンラインミーティング）
1回目：10月30日 2回目：11月7日 3回目：12月26日
4回目：2月5日 5回目：3月13日

(5) 日本いのちの電話連盟及び中部・近畿ブロックとの連携

- (ア) 日本いのちの電話連盟
 - ・総会 6月25日 Web 会議にて開催
 - ・事務局長協議会 コロナウイルス感染症流行のため、中止
 - ・近畿・中部ブロック会議 1月17日 Web 会議にて開催
 - ・統計システム事業委員会 6回開催
- (イ) 近畿ブロック合同研修会（JR あんしん財団後援）
1月26日「緊急電話の対応」Webにて開催（和歌山センターより4名参加）

(6) 地域での自殺防止活動

- (ア) 地域自殺対策関係会議への参加
 - ・岩出市自殺対策協議会
2021年8月19日開催 委員・出席：事務局長
 - ・和歌山市市自殺対策協議会
文書回覧にて決議 委員：理事長
- (イ) 自殺予防週間街頭啓発活動への参加
啓発アイテムを1000セット配布
日時：2022年3月13日 11：00～12：00
主催：和歌山市保健所
参加人数：5名
場所：イズミヤ 和歌山店



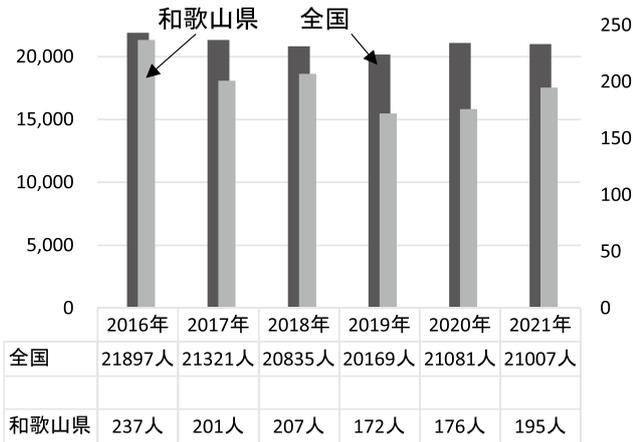
(7) 活動体制・運営方法の変更（新たな取り組み）

- (ア) 運営委員会の参加を班長以外にも開放（全相談員参加可能に）（4月1日～）
- (イ) 相談員への交通費の支給（4月1日～）
2021年度支出 867,000円（1734回分）
（赤い羽根共同基金会様のご支援を主にして）
- (ウ) 機器類の買い替えや新規購入（主に日本財団様のご支援を主にして）
ノートパソコン（2台） zoom 専用機（1台）
MS-Office ソフト（4ライセンス分）
Web 会議カメラ モバイルルーター
空気清浄機（ブース内2台、和室用1台）
飛沫防止アクリル板（養成講座受講生用35枚・講師・受付用2枚）
- (エ) 相談電話自動録音 全録を開始（1月1日～）
- (オ) 養成講座受講生募集方法の追加
テレビ和歌山 CM（和歌山県共同基金会様のご支援を主にして）
ぱど（泉州地域）広告（和歌山県共同基金会様のご支援を主にして）
モスバーガー（5店舗）へのチラシ配置

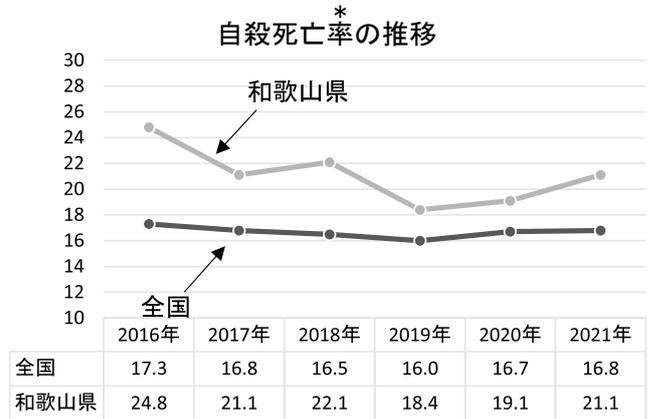
2021（令和3）年度 事業報告

電話受信件数集計 集計期間 2021年1月1日～2021年12月31日（1年間）

自殺者数と自殺死亡率の推移（全国・和歌山県）

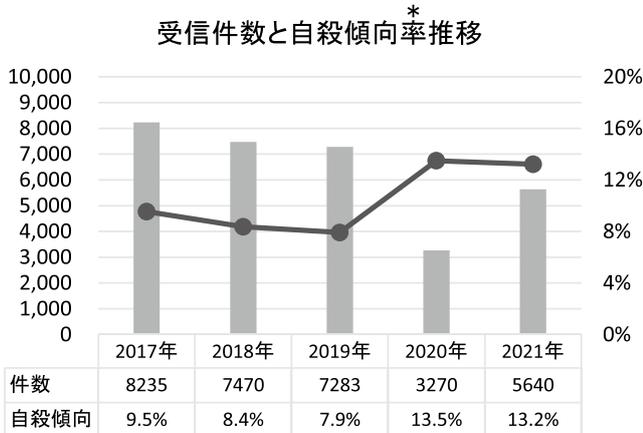


警察庁発表(自殺の発生地における計上)



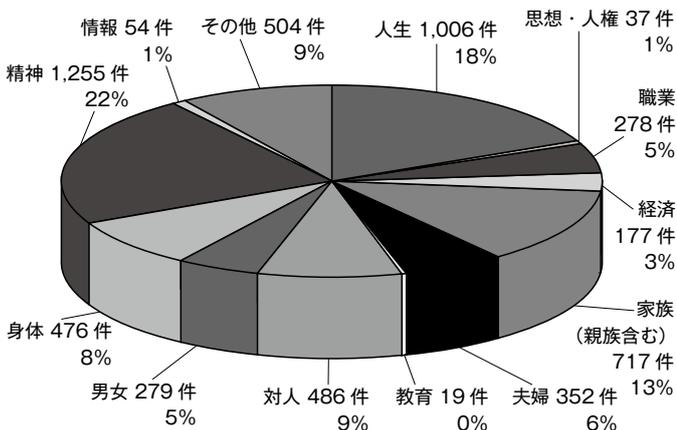
*人口10万人当たりの自殺者数

通常（和歌山いのちの電話）

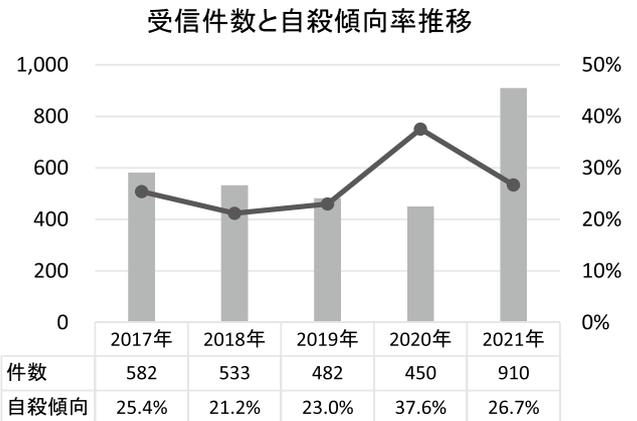


*いのちの電話連盟の定義による

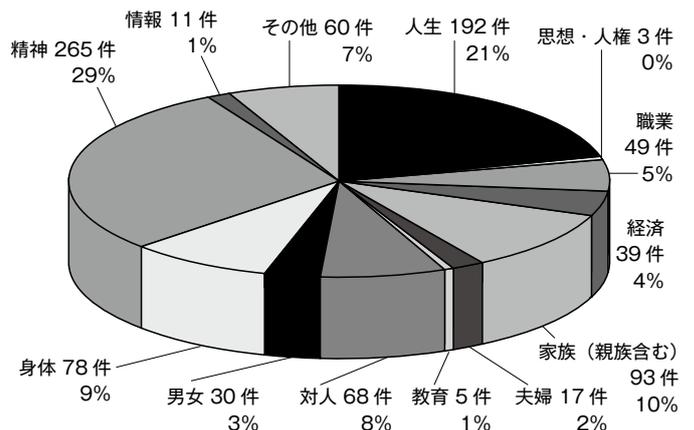
相談内容別件数と割合（5640件）



自殺予防フリーダイヤル（毎月10日＋毎日）

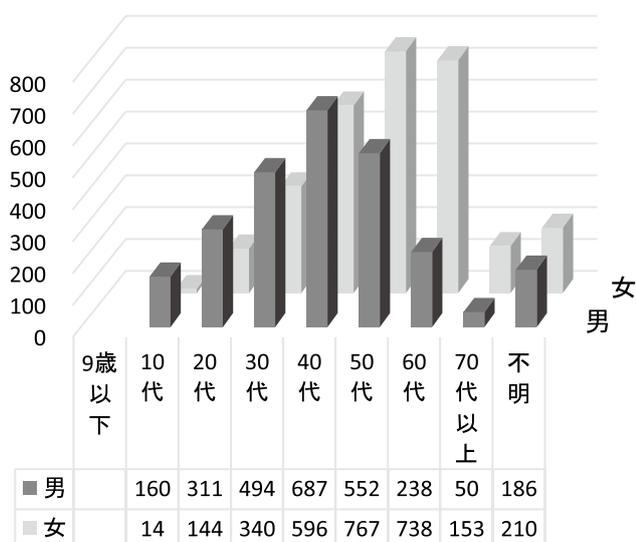


相談内容別件数と割合（910件）

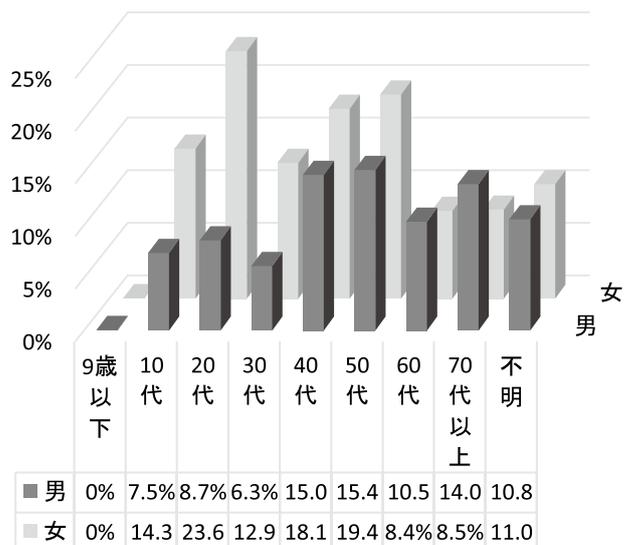


通常（和歌山のいのちの電話）

年代別受信件数の内訳（5640件）

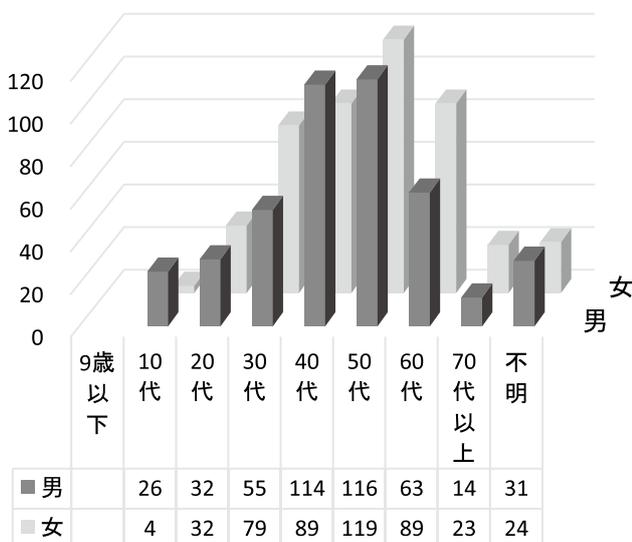


年代別自殺傾向の割合（745件）

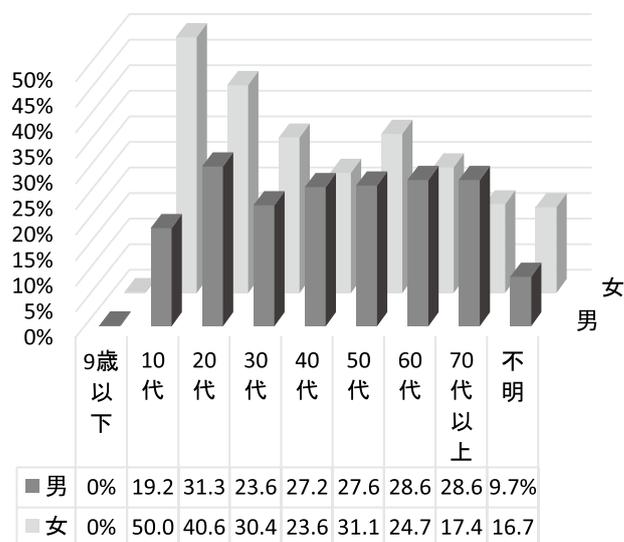


自殺予防フリーダイヤル（毎月10日＋毎日）

年代別受信件数の内訳（910件）



年代別自殺傾向の割合（243件）



全国における2021年自殺者数は2020年より微減しましたが、和歌山県における自殺者数は195人(警察庁発表)と前年より20人増加し、人口10万人当たりの自殺者数(自殺死亡率)はワースト3と悲しい結果となりました。

さて、和歌山のいのちの電話協会の「いのちの電話」の受信件数は、自殺予防いのちの電話(フリーダイヤル)と合わせて6550件と昨年より大幅に増加しましたが、昨年はコロナ感染症拡大により活動を休止していた期間があったためです。2019年との比較では、約1000件受信件数が少ない結果となりました。

受信電話の中で自殺傾向の有無を相談内容から区分しておりますが、2020年はコロナ禍や有名人の自殺が続いたことで自殺傾向率が上昇しましたが、その傾向は2021年も続いています。特に若い女性(10代から30代)の自殺者が増加し問題化されましたが、その傾向は、電話相談にもあらわれ2021年も女性若年世代の自殺傾向割合がコロナ前に比べ高くなっております。

2021 (令和3) 年度 事業報告

決算報告 (2021年4月1日～2022年3月31日)

資金収支計算書

(自) 2021 (令和3) 年4月1日 (至) 2022 (令和4) 年3月31日
(単位:円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異 (A)-(B)
事業活動による収支	その他の事業収入	5,660,687	6,067,339	-406,652
	その他の事業収入	5,660,687	6,067,339	-406,652
	養成研修事業収入	360,000	564,000	-204,000
	補助金事業収入	4,820,687	4,950,687	-130,000
	会費収入	480,000	552,652	-72,652
	経常経費寄附金収入	470,000	682,400	-212,400
	受取利息配当金収入	2,500	1,907	593
	その他の収入	156,000	211,116	-55,116
	雑収入	156,000	156,000	0
	その他の収入		211,116	-211,116
	事業活動収入計(1)	6,289,187	6,962,762	-673,575
	支出			
	人件費支出	1,400,000	1,440,000	-40,000
事業費支出	2,875,000	3,786,884	-911,884	
事務費支出	2,075,600	1,610,688	464,912	
事業活動支出計(2)	6,350,600	6,837,572	-486,972	
事業活動資金 収支差額(3)=(1)-(2)	-61,413	125,190	-186,603	
施設整備等による収支	収入			
	施設整備等収入計(4)	0	0	0
	支出			
	固定資産取得支出	0	951,170	-951,170
	器具及び備品取得支出		720,170	-720,170
ソフトウェア取得支出		231,000	-231,000	
施設整備等支出計(5)	0	951,170	-951,170	
施設整備等資金 収支差額(6)=(4)-(5)	0	-951,170	951,170	
その他の活動による収支	収入			
	その他の活動収入計(7)	0	0	0
	支出			
その他の活動支出計(8)	0	0	0	
その他の活動資金 収支差額(9)=(7)-(8)	0	0	0	
予備費支出(10)	100,000		100,000	
当期資金収支差額合計 (11)=(3)+(6)+(9)-(10)	-161,413	-825,980	664,567	
前期末支払資金残高(12)	1,075,670	3,862,279	-2,786,609	
当期末支払資金残高(11)+(12)	914,257	3,036,299	-2,122,042	

監査報告書

監査報告書	
社会福祉法人和歌山いのちの電話協会の2021(令和)年度における会務及び会計監査を下記により、厳正に実施しました。	
記	
1 監査実施日	2022年(令和4年)5月6日
2 監査資料	
(1)	会務報告書
(2)	収支決算書・貸借対照表・財産目録
(3)	預金通帳
(4)	関係諸帳簿等証拠書類
(5)	会議議事録
3 監査意見	
諸帳簿及び証拠書類は、いずれも正しく整備され、収入、支出ともに適切に処理されていると認めます。	
2022(令和4年)年5月6日	
監事	紀 俊 康

貸借対照表

2022年3月31日現在

(単位:円)

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	3,351,313	4,199,409	-848,096	流動負債	315,014	337,130	-22,116
現金預金	1,575,313	3,523,409	-1,948,096	未払費用	229,151	223,067	6,084
未収補助金	1,776,000	676,000	1,100,000	預り金	3,063	3,063	0
				前受金	82,800	111,000	-28,200
固定資産	39,370,208	38,836,998	533,210	固定負債			0
基本財産	10,000,000	10,000,000	0	負債の部合計	315,014	337,130	-22,116
定期預金	10,000,000	10,000,000	0	純資産の部			
その他の固定資産	29,370,208	28,836,998	533,210	基本金	10,000,000	10,000,000	0
建物	628,533	858,322	-229,789	国庫補助金等特別積立金	557,506		557,506
器具及び備品	1,018,375	478,676	539,699	その他の積立金	27,500,000	27,500,000	0
ソフトウェア	223,300		223,300	施設整備等積立金	9,700,000	9,700,000	0
施設整備等積立資産	9,700,000	9,700,000	0	運営基金積立金	17,800,000	17,800,000	0
運営基金積立資産	17,800,000	17,800,000	0	次期繰越活動増減差額	4,349,001	5,199,277	-850,276
				(うち当期活動増減差額)	-850,276	-1,120,158	269,882
				純資産の部合計	42,406,507	42,699,277	-292,770
資産の部合計	42,721,521	43,036,407	-314,886	負債及び純資産の部合計	42,721,521	43,036,407	-314,886

2022（令和4年）年度事業計画

基本方針

2022年度は順調に相談員養成が進み、新たに25名の準相談員(35期1名、37期24名)が加わり、稼働相談員数が85名となる見込みです。コロナ禍の収束はみえませんが、今まで通り安全に配慮しながら、昨年に続き稼働相談員100名を目標に、活動休止中の相談員に復帰を働きかけ、人員確保に努力します。併せて、より質の高い相談活動を維持するための研修・環境整備に注力し、受信件数を2018年度水準に戻すことを目標に活動していきたいと考えています。

(1) 電話相談事業



総受信件数は年々減少傾向となっており、2022年度は総受信件数7500件を目標とする。

(ア) 和歌山のいのちの電話相談電話(073-424-5000)の実施
開設時間:10:00～22:00
休日:年中無休

(イ) フリーダイヤル(日本のいのちの電話)への参加
・毎月10日24時間フリーダイヤル
・毎日フリーダイヤル(16:00～21:00)
和歌山センターは金曜日のみ参加

(ウ) 交通費の支給の実施
昨年度に続き、相談員への交通費を支給

(2) 新しい電話相談員の養成

(ア) 第37期生の相談員認定への取組み
2023年2月の相談員認定に向け、フォローアップを実施。
・グループスーパービジョン(ピアスーパービジョン)研修
・個人スーパービジョン

(イ) 第38期電話相談員養成講座の開催
38期については、20名での開講を目標とする。
・養成講座 2022年5月21日(土)～2022年10月29日(土)
・受講費用 受講生負担1.5万円
・適性面接 2022年11月12日(土)
・実習 2022年12月3日(土)～2023年3月下旬

(ウ) 第39期電話相談員養成講座開催の準備
2022年11月より準備活動に着手

(3) 研修・スキルアップ

(ア) 全体研修
全相談員を対象とした講義・講演形式の研修を年3回以上実施。
班会から企画を募り以下に実施を計画。
・「スピリチュアルケア」
講師:大下 大圓氏(飛騨千光寺住職)
・「アンガーマネジメント」
講師:福成 三三代氏(日本アンガーマネジメント協会)
・「若者向けLINE相談」
講師:橘 ジュン氏(NPO法人BONDプロジェクト)

(イ) スーパービジョン
・グループスーパービジョン(ピアスーパービジョン)必須研修又はライブスーパービジョン。
コロナ禍により2年間休止していたが、2022年度より再開する。
・先生を囲んでスーパービジョン 任意研修
2020年度より継続的に実施。カウンセリング専門家を迎えてのグループスーパービジョンを年間2回以上実施する。

(ウ) 育成研修
育成委員を対象とした研修を育成委員自身が企画し年3回実施する。

(4) 会議・連絡会の開催

(ア) 運営委員会
年6回奇数月に開催。相談員が健全で充実した相談活動が出来るよう、意見・提案を集約し、相談員と事務局で改善に向けて協議・調整を行う。

(イ) 班会
年6回偶数月に開催。

(ウ) 育成委員会
必要に応じ適宜開催。相談員研修・育成委員研修・実習・準相談員研修の企画立案を育成員が行い、円滑に実施されるよう事務局と協議・調整を行う。

(エ) 広報誌の発行(有志による作成チームが担当)
必要に応じ編集会議を適宜開催。和歌山のいのちの電話の活動を関係機関・地域住民にむけて、広く周知するために広報誌を年2回発行する。

(5) 公開講座

和歌山のいのちの電話(団体)を地域住民に広く知ってもらう機会を確保するために年1回開催する。

(6) 日本のいのちの電話連盟及び中部・近畿ブロック会との連携

2022年6月 日本のいのちの電話連盟総会 東京
2022年7月 日本のいのちの電話連盟事務局長研修会 東京
2022年10月 公益財団法人JR西日本あんしん社会財団主催
近畿ブロック合同研修会 京都
2023年1月 中部・近畿ブロック会

2022 (令和4年) 年度 事業計画

(7) 寄付金、助成金、補助金

(ア) 和歌山県自殺対策の補助金申請 (約 76 万円)
 用途：事務局次長人件費、研修費

(イ) 和歌山市福祉協議会の助成金申請 (5 万円)
 用途：特に限定されていません

(ウ) JR 西日本あんしん社会財団の助成金申請 (60 万円)
 用途：養成講座費用

(エ) (継続・単年のみ) 赤い羽根共同募金会助成金申請
 (100 万円) 見込み
 用途：相談員交通費、研修費、
 養成講座受講生募集宣伝広告費

(オ) (新規・単年のみ) わかやま SDGs パートナリシップ基金
 申請 (3 万円)
 用途：相談ブース 椅子の買い替え

(カ) 援援助者・一般からの寄付金 (目標 50 万円)
 用途：団体運営一般管理費 (人件費・消耗品など)

以上

2022(令和4)年 収支予算書

(自) 2022 (令和4) 年4月1日 (至) 2023 (令和5) 年3月31日
 (単位：円)

勘定科目		2021年度 実績(A)	2022年度 予算(B)	差異 (A)-(B)	
事業活動による収支	その他の事業収入	6,067,339	3,248,000	2,819,339	
	その他の事業収入	6,067,339	3,248,000	2,819,339	
	養成研修事業収入	564,000	360,000	204,000	
	補助金事業収入	4,950,687	2,456,000	2,494,687	
	会費収入	552,652	432,000	120,652	
	経常経費寄附金収入	682,400	500,000	182,400	
	受取利息配当金収入	1,907	1,700	207	
	その他の収入	211,116	176,000	35,116	
	その他の収入	211,116	176,000	35,116	
	事業活動収入計(1)	6,962,762	3,925,700	3,037,062	
支出	人件費支出	1,440,000	1,200,000	240,000	
	事業費支出	3,786,884	2,779,000	1,007,884	
	事務費支出	1,610,688	738,600	872,088	
	事業活動支出計(2)	6,837,572	4,717,600	2,119,972	
事業活動資金 収支差額(3)=(1)-(2)	125,190	-791,900	917,090		
施設整備等による収支	収入				
	施設整備等収入計(4)	0	0	0	
	支出	固定資産取得支出	951,170	0	951,170
		器具及び備品取得支出	720,170	0	720,170
		ソフトウェア取得支出	231,000	0	231,000
施設整備等支出計(5)	951,170	0	951,170		
施設整備等資金 収支差額(6)=(4)-(5)	-951,170	0	-951,170		
その他の活動による収支	収入				
	その他の活動収入計(7)	0	0	0	
	支出				
	その他の活動支出計(8)	0	0	0	
その他の活動資金 収支差額(9)=(7)-(8)	0	0	0		
予備費支出(10)		50,000	0		
当期資金収支差額合計 (11)=(3)+(6)+(9)-(10)	-825,980	-841,900	15,920		
前期末支払資金残高(12)	3,862,279	3,036,299	825,980		
当期末支払資金残高(11)+(12)	3,036,299	2,194,399	841,900		

法人役員

2022年6月現在 敬称略

任期 令和3年6月～令和5年5月

任期 令和3年6月～令和7年5月

理事長 加藤 和子

評議員 竹中 庸之 北野 愛子

中 拓哉 柳瀬 智明

理事 小川 一夫 上野 和久 東 睦広

高木 欽恒 戸井 洋木

市野 弘 小西 慶直 河合 馨

坂田 真穂 古川 祐典

監事 紀 俊崇 三木 拓哉

感謝報告

和歌山いのちの電話の運営のために
次の方々からご支援いただきました。
誠にありがとうございました。

い

石田 等
(株) 石橋
岩橋 秀樹

う

宇治田 幸雄

お

岡本 由美
小川 一夫
小川 世琳

か

川島 正明

き

紀 俊崇
北野 愛子

さ

坂田 真穂
坂本 義浩
佐向 恵美子

し

下前 好美
新建電機株式会社

せ

瀬戸 暉子

そ

惣 光 寺

た

高木 歆恒
高須 斗季子
竹下 淳也

て

医療法人天竹会 理事長 竹中庸之

な

仲 幸雄
永石 眞砂子
中谷 静子

に

西 陽子
日本基督教団東梅田教会

は

林 千代子
(株)春風会 三木拓哉

み

光 成美子
南 出裕子

や

柳 瀬 智明
藪 佑美

よ

吉村 文孝

わ

渡 辺 友子

(敬称略)

あなたのご支援をお待ちしております。

和歌山いのちの電話協会では、収益活動を行っていないため、運営に関わる資金を、寄付金、補助金、会費で賅っています。そのため、安定した運営には至っておらず、財政的に厳しい状況が続いております。

どうか、一人でも多くの方々の心の痛みに寄り添う為に、このボランティア活動にご賛同いただき、支援会員という立場で、ご支援をいただきますよう、心よりお願い申し上げます。

個人支援会員 年間1口 3,000円
法人支援会員 年間1口 10,000円
(ご支援は1口以上、何口でも結構です、お気持ちでお願いします)

振込先 ◆郵便振替 00940-9-106933
和歌山いのちの電話協会

◆紀陽銀行 本店 普通 732389
社会福祉法人 和歌山いのちの電話協会

ご支援いただいた寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

支援者のお名前は広報誌に感謝報告の掲載をさせていただき、講演会の案内なども送付させていただきます。

相談電話

和歌山 午前10時～午後10時(年中無休)
073-424-5000

フリー
ダイヤル 毎月10日は24時間相談(通話料無料)
0120-783-556

ナビ
ダイヤル 午前10時～午後10時(年中無休)
0570-783-556

和歌山いのちの電話は様々な悩みや
心の危機に直面している方や
身近に相談できる相手がなく
孤独の中にいる方のための相談電話です。

発行日 2022年9月
発行人 加藤 和子
発行所 社会福祉法人 和歌山いのちの電話協会
〒640-8137 和歌山市吹上5-2-15
電話/073-425-3261 FAX/073-425-3267
ホームページ/<http://www.w-inochi.com/>